



生命の大切さ



誰もが「健康で働き続け、平和な暮らしを」と考えます。ところが、自分自身が健康で日常の闘いに障害が起きないとき、忘れるのは健康と平和の問題です。私は「闘病生活」に入り、手術・抗がん剤治療を受け、果たさなければならぬ問題であると実感しています。つまり「健康で平和な暮らし」はなくてはならないと強く感じるからです。

闘病中に、妻が「くも膜下出血」で倒れ、急遽入院手術、そしてリハビリ中です。孫の学校・保育所への送り迎えが加わり、「健康で平和」がいかに大切かを肌身で感じています。

闘病中とはいえ、長く培ってきた「世直し」の運動が

ますます強く意識されます。病魔に襲われ強く思うようになりました。それでも良いこともあります。闘病生活と妻の突然の手術などを経て、「仲間が良いものだ」「仲間がいて良かった」です。

しかし、社会の動きは平和や、健康な暮らしから遠ざかっているようです。原因は「オスプレイ」未亡人製造機」の沖縄・豪州での墜落事故、そして原因が究明されない中で、日本国内での演習です。さらに、「イージス艦」の伊豆沖、マラッカ海域での追突事故です。「健康で平和な暮らし」に逆行する社会の動きに監視を強め、強く抗議する態勢づくりが大切と考えています。

労働大学企画編集委員 南部 光春